

○ 10月1日(水)

小中学校視察(長岡京市立長法寺小学校)

○ 安藤 委員



「法やルールに関する教育」の5年生の研究授業を拝見しました。

討論の題材は「ゴミの収集場所はどこがいい？」。

仮想の町内会を舞台に、それぞれ立場や生活環境の異なる役割（町内会の住民役）となり、相互の意見に折り合いをつけながら紛争を解決していくというもので、「公正・公平」「ルールやきまりの意味を考える」授業でした。

多数派の意見に一度は合意するものの、「自分の家の前がゴミ置き場で本当に納得できるのか」「場所だけの問題なのか」、「決めたルールに問題はないか」など、先生の問いかけに再び議論の中身を修正したり方向性を変えたりしながら、各グループで話し合い活動が進められました。複雑な利害関係を踏まえ、どの部分を共通理解のポイントにするかグループごとに個性もあり、単に正解を求める授業とは違い、とても新鮮に映りました。

合意に向けた話し合いはできても、利害関係（自分やその他の人の損と得）や、何が問題なのか、合意する上で何が難しいのかを考える過程が大切で、それぞれの意見や考え方に価値があるということへの理解を深めていたように思います。

また、全教職員の事後研究でも、授業から見えた課題や発達段階に応じた手法などを話し合い、子どもたちが、よりいっそう「きまりやルール」についての理解を深め丁寧な議論ができるよう、熱心に取り組んでおられる姿には熱意やチームワークの良さが感じられました。

小さい集団でも異なる意見をまとめるのは、大人でも容易ではありません。実生活においては、仮想体験したことよりももっと予定不調和な問題に直面していくと思います。自分が直面した問題やトラブルにしっかりと向き合い、意見を反映させることができるようになるには「ことばの力」や「基礎学力」も必要な素材です。

この学校では、日々の学級運営はもちろんのこと、学習する環境、また家庭での学習習慣もきちんと身につけていることなど 基盤がしっかりとあると思いました。

今後はここで学んだ知識や考え方を実生活に生かし、他者と共存していく中で自主的に行動する力を育み、発揮できるよう積み重ねていって欲しいと願っています。